

第1分科会

「学びと共創の空間としてのライブラリー」

多くの図書館は、独立した機関としてサービスを提供しています。しかし、この分科会で取り上げる2つの機関は、親機関の施設内に附設され、主としてその施設利用者に対してサービスを提供しています。具体的には、特定テーマに関心をもつ人たちの学びと研鑽の場と、親機関の関係者を中心とした協働の場において、資料等の提供を行っています。それぞれの空間では、どのような利用者から、どういったニーズがあり、それを満たすためのサービスを展開しているのでしょうか。

この分科会では、2つの機関の活動をご紹介いただくことで、従来の図書館との相違点を認識し、図書館のもつ機能や果たすべき役割等を考え、日ごろの図書館運営やサービスを考える上での参考とする機会にいたします。

① 杉本 豪之 氏（㈱ワコール 総合企画室 広報・宣伝部
スクール企画課）

「美的好奇心をあそぶ、みらいの学び場
～ワコールスタディホール京都～」

② 青山 昇一 氏、朝倉 和子 氏（パナソニック㈱ 全社
CTO室 通技術サポート部）

「イノベーションを生み出す場作りへのチャレンジ」

司会：青柳 英治（明治大学文学部）

運営：木村 美実子（(国研) 科学技術振興機構）

第2分科会

「 私立図書館の今 」

2016年に専門図書館協議会私立図書館小委員会が実施した「私立図書館実態アンケート」の経緯と概要、及び結果について発表します。これまでその全体像が必ずしも明らかではなかった日本の私立図書館の活動状況について伺い知ることができるでしょう。

また、昨年リニューアルオープンした日本交通公社旅の図書館から、公益法人における公益事業としての私立図書館活動をどのように構想し、実行されているか発表していただきます。

① 藤田 節子 氏（川村学園女子大学）
田村 靖広 氏（(公財) 後藤・安田記念東京都市研究所
市政専門図書館）

「私立図書館実態アンケート調査の概要と結果について」

① 大隅 一志 氏（(公財) 日本交通公社旅の図書館）

「私立図書館の役割と新たな可能性を考える～旅の図書館
リニューアルへの挑戦」

司会：武藤 祥子（(公財) 松竹大谷図書館）

運営：須貝 弥生（(公財) 松竹大谷図書館）

第3分科会

「 展示を考える 」

所蔵資料の存在と価値を知ってもらい、利用者を増やすには、展示がわかりやすく効果的です。テーマを決めて、資料を選び、並べるためには、実際にはどのようにしたらよいのでしょうか。講演では、ミュージアム開館以来、展示を担当している講師のお二方に、その経験で培ったノウハウについてお話いただきます。

展示の捉え方から、安全で美しい展示のための道具づくり、人と資料をつなぐ解説の作り方まで、実務的なノウハウを具体例を交えてわかりやすく教えていただきます。また、展示が独りよがりにならないためには来館者の調査が不可欠です。そこで東洋文庫で行っているアンケートと、その分析についてもご紹介いたします。

意見交換では、皆様からの質問にお答えするとともに、参加者の館での実例についても紹介いただくなど意見交換をしたいと思います。東洋文庫ミュージアムの展示技術を学び、展示について参加者全員で考えてみませんか。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

① 岡崎 玲奈 氏（(公財) 東洋文庫普及展示部学芸員） ② 篠木 由喜 氏（(公財) 東洋文庫普及展示部学芸員）

「図書館展示再考—東洋文庫の展示実例」

司会：柳 一美（(㈱) 日立製作所研究開発グループ図書室）

運営：楯石 もも子（(公財) 東京都歴史文化財団
東京都江戸東京博物館図書室）

分科会の概要（午後の部：6月30日（金）13:00～16:00）

第4分科会

「新たな時代のニーズに対応する著作権」

著作権関係の動向については常に注視しておく必要があります。今年2月に、文化審議会著作権分科会法制・基本問題小委員会の中間まとめが発表され、今後の展開に注目が集まっています。内容としては新たな時代のニーズに的確に対応した権利制限規定の在り方についての検討、教育の情報化の推進、障害者の情報アクセス機会の充実、著作物等のアーカイブの利活用などです。このテーマの説明とともに、今後の著作権の動きについて多角的な解説があります。また、事例報告として現実的課題となっている著作権者不明等の場合の裁定制度の利用円滑化に向けた「オーファンワークス実証事業」の現状と展望を聞くことができます。こうしたことにより今後の展望が開けるとともに、疑問を解く手がかりが見えてきますので、業務推進に大いに役立つ分科会となります。

① 澤田 将史 氏（文化庁長官官房著作権課 著作権調査官）
「著作権をめぐる動き」

② 稲田 孝哉 氏（公益社団法人日本複写権センター）
「オーファンワークス実証事業～現状と今後の展開」

司会：山崎 美和（(国研) 科学技術振興機構） 運営：永井 昌史（日本化薬株式会社）

第5分科会

「オープンアクセスとオープンサイエンス～専門図書館の役割とこれからの課題」

情報通信技術の急速な発展に伴い、研究成果や研究情報を分野や国境を越えて活用し、新たな価値を生み出すための取り組みが世界的に広がっています。

本分科会では、リポジトリやデータジャーナルの構築などを通じて、所属機関の研究成果・研究データのオープンアクセス化を積極的に推進している専門図書館のライブラリアン・研究者を講師に迎え、具体的な取り組みについてお話しいただきます。

オープンサイエンスの進展の中で、今後、専門図書館が果たすべき役割と課題について考える場を創ります。

① 常川 真央 氏（千葉大学アカデミック・リンク・センター）
土佐 美菜実 氏（(独) 日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館）
「OAプラットフォームを乗り越える：アジア経済研究所の取り組みを通じて」

② 江草 由佳 氏（国立教育政策研究所 研究企画開発部 教育研究情報推進室 総括研究官）
「紀要論文へCiNiiから本文リンクを張りたい：国立教育政策研究所教育図書館のJAIRO Cloud活用の取り組み」

③ 南山 泰之 氏（(共) 情報・システム研究機構 国立極地研究所 情報図書室）
「サイエンスデータを繋ぐ：国立極地研究所での取り組み」

司会：村井 友子（(独) 日本貿易振興機構アジア経済研究所） 運営：古根村 政義（神奈川県立川崎図書館）

第6分科会

「これからの図書館員～人、コミュニケーションをキーワードとして」

AI、ロボットが日常生活にあたりまえに浸透しつつある今、これらのテクノロジーによって代替される可能性が高い職業、低い職業に関心が集まっています。図書館員は残念なことに代替される可能性が高い職業に分類されがちです。その原因のひとつには、図書館員は本（多少電子系のものにとってかわられたとしても）を扱う人、管理する人というイメージの強さにあるのではないのでしょうか。でも図書館の重要な意義が「利用者と資料・情報を、時間あるいは空間を超えて結びつける所（村橋勝子「情報便利屋の日記」より）」であるのなら、図書館員は本に向き合うだけでなく、人と向き合い、伝えていくことが必要なのではないかと思えます。特に専門図書館にとって、情報と人を結びつけることはとても重要なのではないかと考えました。そこでこの分科会では「人」「コミュニケーション」ということをキーワードとしてこれからの図書館員の姿を考えてみたいと思えます。

① 志水 正敏 氏（日本科学未来館科学コミュニケーター）
「図書館に期待される『人をつなぐ』役割～科学コミュニケーションの視点から」

② 井上 昌彦 氏（関西学院大学図書館）
「信用される職員から、信頼されるパートナーへ～コミュニケーションこそライブラリアンの真骨頂！」

司会：結城 智里（(一財) 機械振興協会 BIC ライブラリ） 運営：渡邊 浩江（東京商工会議所）

全国研参加費用一覽表

単位:円

	1人目	2人目	3人目	4人目
正会員(1-2口)	18,000	10,000	10,000	10,000
正会員(3口)	18,000	0	10,000	10,000
正会員(4-5口)	18,000	0	0	10,000
賛助(1口)	18,000	10,000	10,000	10,000
賛助(2口)	18,000	0	10,000	10,000
個人会員	10,000			
非会員	23,000	23,000	23,000	23,000
協賛(賛助・正)	0	18,000	10,000	10,000
協賛(非会員)	0	23,000	23,000	23,000